

『テサロニケの人々の教会へ 第一』私訳

阿 部 包

新共同訳聖書で表題が『テサロニケの信徒への手紙 一』となっているこの手紙は、通常パウロの手紙のなかで最初に書かれたもの(51年)と認められている。表題については、冒頭の1章1節に「テサロニケの人々の教会に宛てて」とあるので、『テサロニケの人々の教会へ』とした¹。

テサロニケは、アレクサンドロス大王の死(前323年)後、将軍の一人アンティパトロスの息子カッサンドロス(前358~297年)の支配の下に独立したマケドニアに、前316/315年に創られた港町である。創ったのはカッサンドロス、テサロニケは彼が結婚していた大王の妹の名であった。

テサロニケは自然的条件に恵まれた港であるだけでなく、近くをエグナティア街道が通っていたので、コリントスと並んで繁栄する貿易港湾都市となった。パウロ当時は、ローマの属州マケドニアの首都として活況を呈していた。

残念ながら、パウロの時代に関する限り、テサロニケでは今日に至るまで、ユダヤ人の居住の証拠となるに足る考古学的な発掘は報告されていない。しかし、ルカの記述によれば、パウロが同労者と一緒にこの町に到着したとき、彼らはそこにあったシナゴークで、旧約聖書に基づいてユダヤ人たちと論じ合い、メシアの受難と死者たちの中からの復活が起るべくして起ったことであり、彼らが告げ知らせているイエスこそ他

¹ 翻訳の底本は、NESTLE-ALAND, *NOVUM TESTAMENTUM GRAECE*, Ed. XXVII, Deutsche Bibelgesellschaft, Stuttgart, 1993. である。

ならぬそのメシアなのだ、ということ論証した。その結果、ユダヤ人や神を敬う人々が少なからず信じるに至ったが、町は混乱に陥ったのであった²。

この手紙におけるパウロ自身の記述を参照すれば、テサロニケの教会の主たる構成員はギリシア人だったと思われる。パウロは2章14節で、「兄弟のみなさん、実際、あなたがたは、ユダヤの地にある、キリスト・イエスのうちにある神の諸教会に倣う者となりました。なぜなら、あなたがたも同じ苦しみを自分と同じ民族から受けたからですが、それは、ちょうど彼らも（同族の）ユダヤ人たちから（受けた苦しみでした）。」と書いているのである³。

手紙の中で、テサロニケの信徒たちは、その入信時においても、またその後の歩みにおいても賞賛に値する模範的な信徒として描かれている⁴。彼ら自身はキリストの再臨への希望を忍耐強く持ち続けたのであるが、既に亡くなった者たちについては不安を抱いていた。パウロは、4章13節以下でそれに応えている。イエスが死んで復活したとわれわれが信じているなら、全く同様に、神は既に死んでいる者をもイエスをとおして彼と一緒に連れて行ってくださるのだ、また、その復活には順番があり、キリストの再臨まで生き残るわれわれの方が既に死んでいる者よりも先になるということは決してないのだ、と。

パウロは、キリストの再臨の場面をかなり具体的なイメージを駆使して描いている。すなわち、「主ご自身が、合図の号令とともに、大天使の声の（響く）中、神のラッパの（響く）中を、天から降りて来ると、キリストのうちにあって死んだ人々が最初に復活し、それから、生き残っているわたしたちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、遂に空の中で主との出会いを果たすのですが、こうして、わたしたちはいつでも主と一緒にいることになるのです」（4：16～17）、と。ここでは黙示文学的想像力が指導的役割を果たしている。

² 使徒言行録 17：1～9、参照。その中の一人がヤソンであるが、彼がユダヤ人か異邦人かは分からない。

³ 1：9 b. も参照。

⁴ 1：3、6～8、2：19～20、3：6～9、4：1、9～10、参照。

紀元 50 年を過ぎた当時、キリストの再臨への待望は黙示文学的想像力の働きを生き生きと鼓舞するほど、熱狂的なものであった。再臨の遅延という事態はまだ先の話であった。信徒たちは、再臨を待ち望みつつ、再臨に向けて秩序づけられた終わりの世を生きていたのである。

テサロニケの人々の教会へ 第一

1

〈挨拶〉

1 パウロとシルワノスとティモテオス⁵が、父なる神と主イエス・キリストのうちにあるテサロニケの人々の教会に宛てて（この手紙を送ります）。恵みと平和があなたがたに⁶（ありますように）。

〈テサロニケの信徒たちの信仰と模範 — 主に倣う者 —〉

2 わたしたちは、わたしたちの祈りのときに、（あなたがたを）思い起こしながら、あなた方全員のことで神に感謝しています⁷。それは、絶えず、3 わたしたちが、あなたがたの信仰の業⁸や、愛の労苦、そしてわた

⁵ シルワノスは、パウロの同労者。使徒言行録ではシラスとして出る（15：22, 27, 32, 40, 等、全部で 13 箇所。校訂本文に採用されていない異本に 1 箇所）。シルワノスとしては、パウロの手紙では、ここの他に、2 コリント 1：19, 2 テサロニケ 1：1 に出る。ティモテオスもパウロの同労者。使徒言行録 16：1；17, 14, 15；18：5；19：22；20：4；パウロの手紙では、ここの他に、ローマ 16：21, 1 コリント 4：17；16：10；2 コリント 1：1, 19, フィリピ 1：1, 2：19, 1 テサロニケ 3：2, 6 に出る。

⁶ ローマ 1：7, 1 コリント 1：3, 2 コリント 1：2, ガラテヤ 1：3, フィリピ 1：2, フィレモン 3, 参照。

⁷ 「わたしたちは……感謝しています」については、2：13, 1 コリント 1：4, 参照。eucharistoumen（現在, 直説法, 能動相, 1 人称, 複数）< eucharisteō 「感謝する, 賛美の祈りを唱える」。これが 2 節～5 節までの比較的長い文章の主動詞で、これと直接関係する分詞が、3 節冒頭の mnēmoneuontes と 4 節冒頭の eidontes である。

⁸ 「信仰の業」は、tou ergou tēs pisteōs。パウロにおいて、信仰は「律法の業」の対立概念である。おそらくパウロは、この手紙の段階では「律法の業」

したちの主イエス・キリストの希望の堅持⁹を、神の前で、つまり、わたしたちの父の前で（なされたもの）として思い起こしているからですし、（それはまた）4神によって愛されることになった兄弟のみなさん、わたしたちがあなたがたの選びを知っているからでもあります。5なぜなら、わたしたちの福音があなたがたに届いたのは、言葉だけによるのではなく、力ある業や聖なる霊¹⁰、そして大いなる確信にもよったからです。あなたがたも知っているとおりで、わたしたちがあなたがた〔の間〕に〔あって〕¹¹、あなたがたのためにどのように振舞ったかは。6そして、あなたがたは、わたしたちに倣う者、主に（倣う者）となった¹²のですが、それは、あなたがたが大いなる苦難のなかで、聖なる霊の喜びとともに御言葉を受け入れたからです。7その結果、あなたがたは、マケドニアとアカイアにいる、信じる人々全員の模範となりました。8というのは、あなたがたから出た主の言葉が単にマケドニアやアカイアに響き渡っている¹³だけでなく、むしろ、あらゆる土地で、神に対するあなたがたの信仰が行き渡っており¹⁴、その結果、わたしたちが（これ以上）何かを語る必要はありません。9というのも、（他の）人々が、わたしたちについて伝えてくれているからです。すなわち、どんな形で、わたしたちがあなたがたのところに入ることができた¹⁵のか、また、どのようにして、あな

に對置して「信仰の業」を考へることができたのであろう。

⁹ 「希望の堅持」は、tēs hypomonēs tēs elpidos。「希望の持続」(田川)、「希望の保持」も可能。内容的には、イエス・キリストの再臨によって現実のものとなる自分たちの救いを、希望をもって待ち続けることを意味する。4：13～18、参照。なお、信仰、希望、愛については、特に1コリント13：13、参照。

¹⁰ ローマ15：19、1コリント2：4～5、参照。

¹¹ 原文は、単に〔en〕hymīn。翻訳上の便宜からこう訳した。

¹² 1コリント11：1、フィリピ3：17、参照。

¹³ 「響き渡っている」は、exēchētai（現在、中・受動相、3人称、単数）< exēcheō「鳴り響かせる、響き渡る」。

¹⁴ 「行き渡っており」は、exēlelythen（現在完了、3人称、単数）< exerchomai「出て行く、出て来る」。ローマ1：18でパウロは、LXX 訳詩編18：5（マソラ版は19：5）eis pāsan tēn gēn exēkthen ho phthongos autōn……「彼らの声は全地に行き渡り、……」を引用している。ローマ1：8も参照。

¹⁵ 「入ることができた」は、eisodon eschomen。eisodosは「入ること、入

たがたが偶像から（離れて）神の方に向きを変えたのか、です。（神の方に向きを変えたお陰で、あなたがたは）生きている、真実の神に仕えるようになりましたし、10 また、天から来られる神の子¹⁶を待ち望むようになりました。彼こそ、死者たちの中から神が立ち上がらせた¹⁷方、来るべき怒りからわたしたちを救うイエスです¹⁸。

2

〈テサロニケにおけるパウロの宣教〉

1 実際、兄弟のみなさん、あなたがた自身が知っていることです、あなたがたのところへわたしたちが入ったことが無駄にはならなかった、ということは。2 いや、むしろ、あなたがたも知っているとおおり、フィリピでわたしたちは先に苦しめられ、侮辱されながらも¹⁹、わたしたちの神によって勇気を与えられました、それは、大いなる苦闘の中であなたがたに対して神の福音を語るためだった²⁰のです。3 実際、わたしたちの勧めは、誤謬に基づくものでも、不純な動機に基づくものでも、策略によるものでもありません。4 むしろ、わたしたちは、神による吟味検証を受けて²¹

来、入場、到来」。eschomen (2 aor., 1 人称, 複数) <echō 「持つ、受ける、得る、保つ」。

¹⁶ 「神の子」は、ton hyion autou。autou は、9 節の theō_i zōnti alēthinō_i 「生きている、真実の神」を受ける。

¹⁷ 「神が立ち上がらせた」は、ēgeiren (1 aor., 3 人称, 単数) <egeirō 「立ち上がらせる」。そこから、しばしば「復活させる」の意味で用いられる。自動詞（「目覚める、起きる」）としても使われる。使徒言行録 3：15、参照。

¹⁸ 5：9、ローマ 5：9、マタイ 3：7、参照。「来るべき怒りから」は、ek tēs orgēs tēs erchomenēs。erchomenēs（現在分詞、女性、単数、属格）<erchomai 「来る」。「今将来ようとしている」。

¹⁹ 使徒言行録 16：20～24、参照。

²⁰ 使徒言行録 17：1～5、参照。「勇気を与えられました、それは……語るためだった」と訳したのは、eparrēsiasametha……lalēsai…。主動詞が eparrēsiasametha (1 aor. 中動相, 1 人称, 複数) <parrēsiazō 「公然と語る、大胆に語る、勇気を得る」。lalēsai (1 aor. 不定詞) <laleō 「語る」。目的を表す不定詞。

²¹ 「神による吟味検証を受けて福音を委ねられた」は、dedokimasmetha

福音を委ねられたとおりに、まさにそのとおりに、語っています。すなわち、人々に喜ばれようとしてではなく、わたしたちの心を吟味検証される神に（喜ばれようとして語っているのです）²²。5 というのも、あなたがたが知っているとおりに、かつて、わたしたちはへつらいの言葉で臨んだこともなければ、貪欲ゆえの口実で（臨んだこと）もない²³ からです。（これについては、）神が証人です。6 また、わたしたちは、人間たちから賞賛を求めませんでした、あなたがたからも、他のひとびとからも、です。7 わたしたちは、キリストの使徒として重んじてもらう²⁴ ことも（十分）できるにも拘わらず、です。むしろ、わたしたちは、あなたがたの中であって、幼子のようにになりました²⁵。それは、ちょうど母親がわが子を慈しみ育てるように²⁶、8 まさにそのように、あなたがたをいとおし

hypo tou theou pisteuthēnai to euangelion. 直訳すると「福音を委ねられるべく神によって吟味検証を受けた」。少し後に出る「わたしたちの心を吟味検証される神に」は、theōi tōi dokimazonti tās kardiās hēmōn.

²² ガラテヤ 1 : 10, 参照。

²³ 「わたしたちは、…臨んだこともなければ」、「（臨んだこと）もない」と訳したのは、oute…egenēthēmen. egenēthēmen (1 aor. 受動相, 1 人称, 複数) <gīnomai「起る, 生起する, 生じる, ……となる, ……するに至る, ……である」。「貪欲ゆえの口実」は「貪欲ゆえの見せかけ」も可能。

²⁴ 「重んじてもらう」は、en barei einai. Bauer/Aland は、gewichtig auftreten と訳す。「重んじられる」(協会訳, 青野訳), 「権威を主張する」(新改訳, 新共同訳), 「幅をきかす」(フランシスコ会聖書研究所訳), 「負担をかける」(バルバロ訳, 脚注で「権力を行使する」も示唆)。2 コリント 11 : 9, 参照。

²⁵ 「わたしたちは…幼子のようにになりました」は、egenēthēmen nēpioi. 文脈上、「幼子のように」では理解が困難なために、ēpioi「優しく」という異読を採用する翻訳者もある(青野訳, 青野は注で「口述筆記の際の誤記であろうと思われる」と説明する)。量的に言えば、写本はほぼ二分される。ただし、「幼子」と訳した単語は、「未成年, 未熟な者」とも訳しうる。おそらく、この言葉を用いたパウロの念頭には、常に宣教対象の人々の状況(未熟さ)に合わせる、自分自身の宣教姿勢・方針があったであろう。彼の宣教の基本的姿勢・方針については、1 コリント 9 : 19~23, 参照。

²⁶ 「母親がわが子を慈しみ育てるように」は、hōs eān trophos thalpēi ta heautēs tekna. trophos を「乳母」と訳す例(バルバロ訳, 青野訳)もあるが、「わが子」ta heautēs tekna や 11 節の「父親」との関係で、ここは「母

く思っていたので、ただ神の福音だけでなく、自分たちの命をもあなたがたに喜んで分け与えたいと思っている²⁷のです。それは、わたしたちにとって、あなたがたが愛する者となったからです。9 実際、兄弟のみなさん、あなたがたはわたしたちの労苦と骨折りを覚えているはずです。わたしたちは、夜も昼も、あなたがたの誰にも負担をかけないように心がけて²⁸働きながら、あなたがたに神の福音を宣べ伝えたのです。10 あなたがたと神が(次のことの)証人です²⁹。すなわち、如何に敬虔に、義しく、また非難されるところなく、あなたがた信じる者たちに対してわたしたちが臨んだか、11 あなたがたも知っているとおりに、如何にあなたがた一人ひとりに、ちょうど父親がわが子に対するように³⁰、12 わたしたちが、あなたがたに勧め、励まし、また証言して、ご自身の支配と栄光に入るようにあなたがたを召し出してくださった神に相応しくあなたがたが歩むように導いたか。

13 こうしたことの故に、わたしたちも神に絶えず感謝しているのです。なぜなら、わたしたちによる説教という形で神の言葉を受け取ったとき³¹、あなたがたは(それを)人間の言葉としてではなく、むしろ、真

親」の方がいいだろう。内容的には、1 コリント 3 : 2, 参照。

²⁷ 「喜んで分け与えたいと思っている」は、eudokoumen metadounai。それぞれ、eudokeō と metadidōmi の変化形で、後者は 2 aor. 不定詞形。

²⁸ 「あなたがたの誰にも負担をかけないように心がけて」は、pros to mē epibarēsai tina hymōn。pros to + 不定詞で、目的を表す用法。epibarēsai (1 aor. 不定詞) < epibareō 「負担をかける」。この部分、内容的には、1 コリント 4 : 12, 参照。

²⁹ 「あなたがたと神が(次のことの)証人です」は、hymeis martyres kai ho theos。何の証人かは、後続の二つの「如何に」で導かれ「……か」で結ばれる文章が示している(原文では hōs で導かれる二つの句)。二つ目の hōs 句の前に kathaper oidate 「あなたがたも知っているとおりに」が挿入されている。

³⁰ 1 コリント 4 : 14~15, 参照。

³¹ 「わたしたちによる説教という形の神の言葉を受け取ったとき」は、paralabontes logon akoēs par' hēmōn tou theou。「わたしたちが説いた神の言葉を聞いた時に」(協会訳, 意訳), 「私たちから神の使信の言葉を受けたとき」(新改訳, 原意から逸れている), 「わたしたちから神の言葉を聞いたとき」(新共同訳, ただし、paralabontes を独立して訳語に反映させていない), 「わたしたちから聞いた神のみことばを受け入れたとき」(フランシスコ会聖書研

実そうであるとおりに、神の言葉として喜んで受け入れました³²が、この神はあなたがた信じる者たちのうちに今も現に働いておられるのです。14 兄弟のみなさん、実際、あなたがたは、ユダヤの地にある³³、キリスト・イエスのうちにある神の諸教会³⁴に倣う者となりました。なぜなら、あなたがたも同じ苦しみを自分と同じ民族から受けたからです。それは、ちょうど彼らも（同族の）ユダヤ人たちから（受けた苦しみでした）。15 この（ユダヤ）人たちは、主イエスと預言者たちを殺した³⁵ばかりでなく、わたしたちをも激しく迫害し、神に喜ばれておらず、すべての人々に敵対し、16 異邦人が救われるように彼らにわたしたちが語るのを³⁶妨害しています³⁷。それで、彼らは、自分たちの罪をいつも目一杯満たす結果になり³⁸、そこで、彼らの上に怒り³⁹が、遂に訪れたのです。

〈パウロのテサロニケ教会再訪の願い〉

17 しかし、兄弟のみなさん、わたしたちは少しの間、あなたがたから

究所訳)、「わたしたちから聞くことによって神の言葉を伝えられた時」(青野訳)、等。もちろん、「説教」という訳語が *akoē* のニュアンス全体を表し得るとは言えない。

³² 「喜んで受け入れました」は、*edexasthe* (1 aor. 2 人称、複数) < *dechomai* 「歓迎する、迎え入れる、受け入れる」。

³³ 「ユダヤの地にある」と訳したのは、*tō ousōn en tēi Ioudaiāi*。

³⁴ ガラテヤ 1 : 22, 参照。

³⁵ 使徒言行録 2 : 23, マタイ 23 : 34, ルカ 11 : 49, 参照。

³⁶ 「異邦人が救われるように彼らにわたしたちが語るのを」と訳したのは、*hēmās tois ethnesin lalēsai hina sōthōsin*。直訳は「異邦人に彼らが救われるようにわたしたちが語る」。

³⁷ 使徒言行録 17 : 4 ~ 5, 参照。

³⁸ 「彼らは、自分たちの罪をいつも目一杯満たす結果になり」は、*eis to anaplērōsai autōn tās hamartiās pantote*。 *anaplērōsai* (1 aor. 不定詞) < *anaplērōō* 「満たす、成就する」。この箇所用法について、H. Hübner は、「彼らの罪のくます目を満たし」の意味としている。「*plērōō, anaplērōō, antanaplērōō*」の項目『ギリシア語 新約聖書釈義辞典 III』教文館、1995 年、139~142 頁、特に 141 頁、参照。

³⁹ 「怒り」は、*hē orgē*。もちろん、「神の怒り」、すなわち「神の怒りの審判」を意味する。ヒュプナーの前掲辞典項目、前掲箇所、参照。

孤児のように引き離されていたので⁴⁰、(といっても)顔が(見られなかった)だけで、心が(引き離されていた)ではないのですが、なお一層、あなたがたの顔を一刻も早く見たいと、大いなる熱望を抱きました⁴¹。18だから、わたしたちはあなたがたのところに意識して行こうとしました⁴²、特にわたしパウロは一度ならず二度までも、です。しかし、わたしたちをサタンが妨害したのです。19 実際、誰が、わたしたちの希望であり喜びであり、あるいは諸々の誇りの冠でしょうか。— あなたがたでなければ(誰が)— わたしたちの主イエスの再臨のとき、主の前にあって。20 というのも、あなたがたこそ、わたしたちの栄光であり喜びなのですから。

3 1 それで、もはや我慢していられなくなったので、わたしたちだけがアテナイに残っていることに決め⁴³、2 わたしたちは、わたしたちの兄弟にして、キリストの福音における神の同労者ティモテオスを派遣しま

⁴⁰ 「孤児のように引き離されていたので」は、*aporphanisthentes* (1 aor. 受動相, 分詞, 複数, 主格) < *aporphanizō* 「孤児とする, 引き離す」。語源的には, *apo* (分離・断絶を表す前綴り) + *orphanos* 「孤児になった (形容詞), 孤児 (名詞)」。

⁴¹ 「なお一層」以下の原文は, *perissoterōs espoudasamen to prosōpon hymōn idein en pollēi ephymia*。構文的には, *espoudasamen* (1 aor. 1 人称, 複数) < *spoudazō* 「急ぐ, 懸命に努力する」, 不定詞をとって, 「急いで…する, 懸命に努力して…する」 …… *idein* (2 aor. 不定詞 < *horaō* 「見る」)。「大いなる熱望を抱いて, あなたがたの顔を一刻も早く見たいと, なお一層思った」も可能。「顔を見る」については, 3:10 にも出る。ローマ 1:11 には, *epithō (gar) idein hymās* 「わたしたちはあなたがたに実際に会うことを切望しています」という表現が出る。

⁴² 「意識して行こうとしました」は, *ēthelēsamen elthein. ēthelēsamen* (1 aor. 1 人称, 複数) < *thelō* 「志す, 意図する, 願う, 欲する」, 不定詞をとって, 「…することを志す」など。 *elthein* (2 aor. 不定詞) < *erchomai* 「行く」。むしろ, ニュアンスとしては, 「一度ならず二度までも行こうと試みたのに」。

⁴³ 「わたしたちだけが…残っていることに決め」は, *eudokēsamen kataleiphthēnai* …… *monoi. eudokēsamen* (1 aor. 1 人称, 複数) < *eudokeō* 「喜ぶ, 選ぶ, 適う, 定める」。 *kataleiphthēnai* (1 aor. 受動相, 不定詞) < *kataleiphō* 「離れる, 去る, 捨てる, 残す, 留める」, 受動相で「(自分だけ離れて)残る, 留まる」。

した。それは、あなたがたを確固たるものとし、あなたがたの信仰のために励まし、3このような苦難のなかでも誰一人動揺させられることがないようにするためです⁴⁴。というのは、苦難に⁴⁵わたしたちが定められていることは、あなたがた自身、知っているからですし、4実際、わたしたちがあなたがたのところにいたとき、わたしたちがまさに苦難を受けようとしているのだと、わたしたちはあなたがたに前もって繰り返し言っていました⁴⁶が、あなたがたも知っているように、事実そのとおりになりました⁴⁷。5そのために、わたしとしてもはや我慢してられなくなって、あなたがたの信仰を知るために（彼を）派遣したのです。それは、誘惑する者があなたがたを誘惑し、わたしたちの労苦が無駄になってしまわないため⁴⁸です。

6しかし、たった今、ティモテオスがあなたがたの許からわたしたちのところに（帰って）来て、あなたがたの信仰と愛を、わたしたちに良い知らせとして伝えてくれました⁴⁹し、また、ちょうど、わたしたちがあ

⁴⁴ 「それは……ためです」は、eis+to+不定詞で、不定詞は、stērixai「確固たるものとし」、parakalesai「励まし」、(mēdena) sainesthai「(誰一人) 動揺させられる(ことがない)」の3つである。いずれも1 aor. 不定詞、sainesthaiだけが受動相。

⁴⁵ 「苦難に」は、eis touto。touto は、先行する文章の en tais thlipsesin tautais を受ける。

⁴⁶ 「わたしたちは…前もって繰り返し言っていました」は、proelegomen (未完了過去、1人称、複数) <prolegō「前もって言う」。この未完了過去は、動作の過去における反復を意味するものと解した。「何度も予告しましたが」(新共同訳)、「あらかじめ話しておいた」(青野訳)、「前もって言っておいたけれども」(田川)、「we told you beforehand (that)」(NRSV)、など。

⁴⁷ 「あなたがたも知っているように、事実そのとおりになりました」は原文の語順を入れ替えた意識。原文は、kathōs kai egeneto kai oidate。新共同訳も同様。「現にそれは生じたのであり、あなた方も御存知のことである」(田川)、「so it turned out, as you know。」(NRSV)、など。

⁴⁸ 「それは、誘惑する者があなたがたを誘惑し、わたしたちの労苦が無駄になってしまわないためです」は、mē pōs epeirasen hymās ho peirazōn kai eis kenon genētai ho kopos hēmōn。epeirasen (1 aor. 直説法、能動相、3人称、単数) <peirazō「誘惑する」。genētai (2 aor. 接続法、3人称、単数) <gīnomai。

⁴⁹ 「良い知らせとして伝えてくれました」は、euangelisamenou (1 aor. 中動

あなたがたに会いたいと切に望んでいるように、あなたがたもわたしたちに会いたいと切に望みながら⁵⁰、いつも、わたしたちについて善い思い出をしっかりと持っているということも良い知らせとして伝えてくれましたので、7 そのために、兄弟のみなさん、わたしたちは、わたしたちがどんな困窮や苦難にあっても⁵¹、あなたがたによって、あなたがたの信仰をとおして、慰め励まされました⁵²。8 なぜなら、わたしたちが今(こうして)生きているのは、あなたがたが主のうちに堅く立っていればこそ⁵³だからです。9 実際、どのような感謝をわたしたちは神に(返礼として)献げることができる⁵⁴でしょうか。すなわち、わたしたちの神の前でああなたがたのお陰で⁵⁵わたしたちが現に喜んでいる、そのあらゆる喜びの機

相、分詞、男性、単数、属格) <euangelizō「良い知らせを伝える、良い知らせとして伝える、福音を伝える、福音として伝える」。ここは、世俗的なニュアンス。この分詞、属格形は、所謂「独立的用法」。後半の kai に続く hoti で導かれる副文にも繋がっている。この関係を、翻訳にも反映させるために、「良い知らせとして知らせてくれましたし、また、……ということも良い知らせとして伝えてくれましたので」と訳した。もちろん、原文では、この独立的属格分詞が後半部で繰り返されることはない。

⁵⁰ 「切に望みながら」は、epipothountes (現在、分詞、男性、複数、主格) <epopothēō「切望する、熱望する、慕う、しきりに会いたがる」。この分詞が関係するのは、直前の複文(内の主動詞)。

⁵¹ 「わたしたちがどんな困窮や苦難にあっても」は、epi pāsēi tēi anankē kai thlipsei hēmōn。「わたしたちが」は意識。直訳は「わたしたちのあらゆる困難と苦難に当たって(際して)」。

⁵² 「慰め励まされました」は、pareklēthēmen (1 aor. 直説法、受動相、1人称、複数) <parakaleō「促す、慰める、励ます、勧告する、懇願する」。この箇所は、「慰める」、「励ます」両方のニュアンスが並存しているように思われるので、こう訳した。

⁵³ 「あなたがたが…堅く立っていればこそ」と訳したのは、eān hymeis stēkete. stēkō は、histēmi の現在完了形 hestēka からつくられたヘレニズムの現在形。接続詞 eān は、通常、接続法(多くの場合、aor.) とともに用いられるが、稀に直説法とともに用いられる。古典期には見られないものとされるが、ここはその一例。意味は、ei ……に同じ。

⁵⁴ 「(返礼として) 献げることができる」は、dynametha……antapodounai (2 aor. 不定詞) <antapodidōmi「報いる、報復する、お返しをする、返礼をする、献げる」。

⁵⁵ 「あなたがたのお陰で」は、di' hymās。

会に、あなたがたのことで(どのような感謝を)。10 夜も昼も、わたしたちは、徒ならぬ熱心さで⁵⁶ 祈りながら、あなたがたの顔を(直接)見て、あなたがたの信仰の足りないところ⁵⁷を補って完成したい⁵⁸と、願っています⁵⁹。

11 神、すなわちわたしたちの父ご自身と、わたしたちの主イエスとが、わたしたちの道をあなたがたのところまで真っ直ぐ差し向けてくださいますように⁶⁰。12 また、あなたがたを、主が、互いに対する、そして、すべての人に対する愛によって、豊かにし、満ち溢れさせてくださいますように。ちょうど、わたしたちがあなたがたに対して(抱いている愛がそうである)ように。13 (そして、)その結果、あなたがたの心を確固たるものとし⁶¹、わたしたちの主イエスの、ご自身のすべての聖なる者たちを伴った再臨のときに、神、すなわちわたしたちの父の前で、聖さという点で非難されるところのないもの⁶²としてくださいますように。

⁵⁶ 「徒ならぬ熱心さで」と訳したのは、*hyperekperissou*。語源的には *hyper* + *ek* + *perissos*「(通常の数や量を)超え出る、有り余る」(形容詞)。*ekperissōs*「過度に、力の限り、力を込めて」(副詞)に、更に *hyper* という「超過、超越」を意味する接頭辞がついた形で、形容詞の独立属格に由来する副詞。言わば、疊語的表現である。

⁵⁷ 「足りないところ」は、*ta hysterēmata*。「欠如、欠乏、不足、不在、欠けているところ(部分)、足りないところ(部分)、不足分」。

⁵⁸ 「補って完成したい」と訳したのは、*katartisai* (1 aor. 不定詞) < *katartizō*「正常な状態に戻す、正しい道に復帰させる、補う、完全にする」。

⁵⁹ 原文では、*deomenoi* という分詞一単語を、翻訳の便宜上、「祈りながら、……願っています」とした。

⁶⁰ 「あなたがたのところまで真っ直ぐ差し向けてくださいますように」は、*kateuthynai*……*pros hymās*。*kateuthynai* (1 aor. 不定詞) < *kateuthynō*「真っ直ぐにする、向ける、導く、開く」。この aor. 不定詞は、希望・期待・願いを表現する用法。

⁶¹ 「その結果、あなたがたの心を確固たるものとし」は、*eis to stērīxai hymōn tās kardiās*。*stērīxai* (1 aor. 不定詞) < *stērīzō*「強める、力づける、確固とさせる、確固たるものとする、励ます」。

⁶² 「聖さという点で非難されるところのないもの」は、*amemptous en hagiōsynēi*。「清く、責められるところのない者」(協会訳)、「聖く、責められるところのない者」(新改訳)、「聖なる、非の打ち所のない者」(新共同訳)は何れも厳密に言えば不正確。「聖なるものとしてとがめられるところなく」

4

〈神に喜ばれる生活〉

1 さて、最後に、兄弟のみなさん、わたしたちは、主イエスにあって、あなたがたに願ひ求め、勧めます。どのように歩んで神に喜ばれるようになるべきか⁶³を、あなたがたはわたしたちから受け、そのとおりに、あなたがたは今歩んでいます、なお一層(その点で)満ち溢れるようあなたがたは努めなさい⁶⁴。2 というのは、わたしたちが、主イエスをとおして、あなたがたにどのような指示を与えたか、あなたがたは知っているからです。3 すなわち⁶⁵、神の意志はこういうことです。つまり、あなたがたが聖なるものとなること⁶⁶、あなたがたが淫らな行為から自分を遠ざけておくこと、4 あなたがた各自が自分の身体⁶⁷を、聖なるもの、尊いものとして保つ⁶⁸すべを心得ていること⁶⁹、5 神を知らない異邦人のように、欲望の情欲に支配さ

(フランシスコ会聖書研究所訳)、「聖さにおいて責められるところのないもの」(青野訳)がいいだろう。

⁶³ 「どのように歩んで神に喜ばれるようになるべきか」は、to pōs dei hymās peripatein kai areskein theōi。

⁶⁴ 「なお一層(その点で)満ち溢れるようあなたがたは努めなさい」と訳したのは、hina perisseuēte mallon。perisseuēte は、現在、接続法、2人称、複数。hina+接続法で、命令法の代用。

⁶⁵ この「すなわち」は、gar を訳したもの。

⁶⁶ 「聖なるものとなること」は、ho hagiastos。

⁶⁷ 「自分の身体」は、to heautou skeuos。skeuos は、「入れ物、容器、道具、家財、財産」。創世記に描かれた創造物語の第二伝承によれば、人間は、土(アダマ)の塵で創られた器であり、女は、男よりも遅れてつくられた弱い器である。「自分の身体」意外に可能な解釈としては、「自分の妻」がある。十戒の最後の戒め(出エジプト記 20:17)には、周知のとおり、男の財産の筆頭に妻が挙げられている。近年の大部分の解釈は後者を探る。

⁶⁸ 「聖なるもの、尊いものとして保つ」は、ktāsthai en hagiastomōi kai timēi。ktāsthai(現在、不定法) < ktaomai「手に入れる、獲得する、勝ち取る、得る、保つ」。

⁶⁹ 「すべを心得ていること」と訳したのは、eidenai(不定詞) < oida「(既に見て)知っている、分かっている、承知している、覚えがある、通じている」。不定詞を補語として、「…するすべを心得ている、弁えている」という意味になる。

れないこと⁷⁰、6 実際の行為において、自分の兄弟の権利を侵害して騙し取ったりしないこと⁷¹(、こうしたことです)。なぜなら、主はこれらすべてのことについて復讐する方⁷²だからであり、この点は、わたしたちがあなたがたに既に前もって話し、また厳しく証言した⁷³とおりです。7 実際、わたしたちを神が召し出してくださったのは、汚れた行為のためではなく、聖なるものとなるため⁷⁴でした。8 そういうわけだから、(これらの指示を)拒む者は、人間を拒んでいるのではなく、むしろ、神を、すなわち、あなたがたにご自身の聖なる霊を与えられた方を拒んでいることになるのです。

9 しかし、兄弟愛については、あなたがたに書く必要はありません⁷⁵。というのは、あなたがた自身、互いに愛し合うように神から(直接)教えられている⁷⁶からであり、10 また、まさにそのことを、マケドニア全域に

⁷⁰ 「欲望の情欲に支配されないこと」と訳したのは、*mē en pathei epithymiās*。直訳は、「欲望の情欲のうちにいないこと」。つまり、欲望の情欲の力が及ぶ範囲内にいないこと。

⁷¹ 「自分の兄弟の権利を侵害して騙し取ったりしないこと」と訳したのは、*to mē hyperbainein kai pleonektein……ton adelphon autou*。「兄弟を踏みつけたり、だましたりしてはならない」(協会訳)、「兄弟を踏みつけたり、欺いたりしないことです」(新改訳)、「兄弟を踏みつけたり、欺いたりしてはいけません」(新共同訳)と訳すより、「自分の兄弟の権利を犯したり、あざむいたりしてはなりません」(フランシスコ会聖書研究所訳)、「自らの兄弟に対して越権行為を為したり、貪りを為したりしないこと」(青野訳)の方が、原文のニュアンスに忠実。しかし、*hyperbainein* と *pleonektein* が異なった事柄を指すとしなければならぬ理由はない。なお、*en tōi pragmati* は、「このようなことで」(協会訳、新改訳、新共同訳)、「そのようなことで」(フランシスコ会聖書研究所訳)ではなく、「行為において」が文脈上望ましい。ニュアンスとしては、「具体的な行為、実際の行為」。なお、「自分の兄弟」は、もちろん、「信仰に基づく自分の兄弟」の意味。

⁷² 「復讐する方」は、*ekdikos* (形容詞)。基本的語義は「義しく報いる」。

⁷³ 「厳しく証言した」は、*diemartyrametha* (1 aor. 1 人称、複数) < *diamartyromai* 「真実であると誓う、力強く証言する、証言しつつ警告する」。

⁷⁴ 「汚れた行為のためではなく、聖なるものとなるため」と訳したのは、*ou……epi akatharsiāi alla en hagiasmōi*。

⁷⁵ 直訳すると、「あなたがたに(わたしが)書く必要をあなたがたは持っていません」。

⁷⁶ 「神から(直接)教えられている」は、*theodidaktōi* (形容詞、男性、複

いるすべての兄弟に対して実践しているからです。しかし、兄弟のみなさん、わたしはあなたがたに勧めます、なお一層(その点で)あなたがたが満ち溢れるよう努めなさい⁷⁷。11 そして、わたしがあなたがたに指示しておいたとおり、静かな生活をし、自分の務めを果たし、あなたがたの [自分の]手で働くことを名誉に思いなさい⁷⁸。12 それは、外部の人々に対して品位ある態度で歩み⁷⁹、誰 (の手) も必要とせずにいる⁸⁰ ためです。

〈主の再臨〉

13 兄弟のみなさん、永眠している人々について、わたしたちは、あなたがたに知らずにてほしくありません⁸¹。それは、希望を持たない他の人々のように、あなたがたが不安に苦しむことがないため⁸² です。14 というのは、もし、わたしたちが、イエスは死んで復活したと信じているならば、それと同じように、また、神は、既に永眠した人々を、イエスをとおして彼と一緒に連れて行ってくださるはず⁸³ だからです。

数、主格)。所謂 hapax legomenon。

⁷⁷ 「なお一層(その点で)あなたがたが満ち溢れるよう努めなさい」と訳したのは、perisseuein mallon。4：1文末の hina perisseuēte mallon、参照。

⁷⁸ 「静かな生活をし」から「名誉と思いなさい」までは、原文では、philōtīmeisthai hēsychazein kai prassein ta idia kai ergazesthai tais [idiais] chersin hymōn。10 節後半にある主動詞 parakaloumen の補語となっているのが、10 節末尾の perisseuein (mallon) と本 11 節の philōtīmeisthai。さらに、この philōtīmeisthai の補語が後続の三つの不定詞 hēsychazein, prassein, ergazesthai である。

⁷⁹ ローマ 13：13、参照。

⁸⁰ 「誰 (の手) も必要とせずにいる」は mēdenos chreīan echēte。

⁸¹ 「わたしたちは、あなたがたに知らずにてほしくありません」は、ローマ 1：13, 11：25, 1 コリント 10：1, 12：1, 2 コリント 1：8 とわれわれの箇所計 6 回出てくるパウロの定型的表現。ローマと 1 コリントの 4 回は thelō (1 人称, 単数), 2 コリントとわれわれの箇所が thelomen (1 人称, 複数) である。

⁸² 「あなたがたが不安に苦しむことがないため」は、hina mē lypēsthe。lypēsthe (中・受動相, 接続法, 2 人称, 複数) <lypeō 「悲しませる, 心を傷つける, 不安に苦しませる, 嘆き悲しませる」

⁸³ 「連れて行ってくださるはず」は、axei (直説法, 未来, 3 人称, 単数) <agō 「導く, 連れて行く」。

15というのも、次のことを、わたしたちは、主の言葉に基づいて言うことができる⁸⁴ からです。すなわち、主の再臨まで生き残っているわたしたちが、既に永眠した人々より先になることはありません⁸⁵。16なぜなら、主ご自身が、合図の号令とともに、大天使の声の(響く)中、神のラッパの(響く)中を⁸⁶、天から降りて来ると、キリストのうちにあって死んだ人々が最初に復活し、17それから、生き残っているわたしたちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ⁸⁷、遂に空中の中で主との出会いを果たすのですが、こうして、わたしたちはいつでも主と一緒にいることになるのです。18それだから、これらの言葉によって互いに励まし合いなさい。

5 1しかし、時代とか時については⁸⁸、兄弟のみなさん、あなたがたが自分たちに(何かを)書き送ってもらう⁸⁹ 必要はありません。2というのは、あなたがた自身、主の日が夜陰に紛れた盗人と同じようにやって来ることをはっきり知っているからです。3人々が「平和だ、安全だ」と言っている、将にそのようなときに⁹⁰、予期せぬ破滅が彼らを襲うのです。それは、ちょうど、陣痛が妊娠している女を(襲う)ようなもので、彼らは逃れることができません⁹¹。4しかし、兄弟のみなさん、あなたがたは闇の中にいるわけではありません。だから、その日があなた方を盗人のように捕らえることはないでしょう。5というのは、あなたがたはみな、光の子であり、昼の子だからです。わたしたちは夜の(子)でも

⁸⁴ 「わたしたちは……言うことができる」と意識したのは、legomeno。

⁸⁵ 「わたしたちが、……先になることはありません」は、ou mē phthasōmen (1 aor. 1人称, 複数) <phthanō 「着く, 達する, 到達する, 先んじる, 来る, 訪れる, 臨む」。

⁸⁶ 「合図の号令とともに、……神のラッパの(響く)中を」は、en keleusmati, en phōnēi archangelou kai en salpingi theou。マタイ 24:31~31, 参照。

⁸⁷ 「引き上げられ」は、harpagēsometha (直説法, 受動相, 第二未来, 1人称, 複数) <harpazō 「略奪する, 強奪する, 奪い去る, 連れ去る」。

⁸⁸ 「時代とか時については」は、peri de tōn chronōn kai tōn kairōn。

⁸⁹ 「自分たちに(何かを)書き送ってもらう」は、hymīn graphesthai (直説法, 現在, 受動相, 不定詞) <graphō 「書く, 書き付ける, 書き送る」。

⁹⁰ 「将にそのようなときに」は、hotan……hōsper。

⁹¹ 「彼らは逃れることができません」は、ou mē ekphygōsin。ekphygōsin (2 aor. 接続法, 3人称, 複数) <ekpheugō 「逃れる, 逃れ出る, 脱出する」。

闇の(子)でもないのです。6 そういうわけだから、わたしたちは、他の人々のように眠っていないで、目覚めたまま、酔わずにいきましょう⁹²。7 というのは、眠る者たちは夜眠り、ぶどう酒に酔う者たちは夜酔うからです。8 しかし、わたしたちは、昼の(子)ですから、信仰と愛という胸当てと、救いの希望である兜を(それぞれ)身につけて、酔わずにいきましょう。9 なぜなら、わたしたちを、神は怒りに定められたのではなく、わたしたちの主イエス・キリストをとおして救いを獲得すべく⁹³(定められた)からです。10 彼は、わたしたちのために死にましたが、それは、わたしたちが目覚めていても眠っていても、主と一緒に生きるようになるためでした。11 だから、あなたがたは、互いに励まし合い、一人一人互いに建て合いなさい。今、あなたがたが現にそうしているとおり。

〈結びの言葉〉

12 そこで、兄弟のみなさん、わたしたちはあなたがたにお願いします。あなたがたの間で労苦している人々、主にあつて(導く)あなたがたの指導者たち⁹⁴、あなたがたに訓戒を与える人々⁹⁵を、しっかり認め、13 また彼らの業のゆえに、溢れる愛をもって⁹⁶尊敬しなさい。互いに平和に暮らしなさい。14 兄弟のみなさん、わたしたちは、また、あなたがたに勧めます。規律を乱す者たち⁹⁷に訓戒を与え、小心な者たちを勇気づ

⁹² 「目覚めたまま、酔わずにいきましょう」は、grēgorōmen kai nēphōmen。それぞれ、grēgoreō「目を覚ましている」、nēphō「酔っていない、酒を飲まない」の現在、接続法、1人称、複数。

⁹³ 「わたしたちの主イエス・キリストをとおして救いを獲得すべく」は、eis peripoiēsīn sōtēriās dia tou kyriou hēmōn Iēsou Christou の意識。

⁹⁴ 「主にあつて(導く)あなたがたの指導者たち」は、proīstamenous hymōn en kyriō_{io} proīstamenous(現在、中動相、分詞、男性、複数、対格) <proīstēmi「前に立つ、指導する、助ける、世話する」。

⁹⁵ 「あなたがたに訓戒を与える人々」は、nouthetountas hymās。nouthetountas(現在、分詞、男性、複数、対格) <noutheteō「訓戒を与える、忠告を与える」<nous+tithēmi。

⁹⁶ 「溢れる愛をもって」と訳したのは、hyperekperissou en agapē_{io}。

⁹⁷ 「規律を乱す者たち」は、tous ataktous。元来は軍隊用語、「軍規を乱す、

け⁹⁸、弱い者たちを支え、すべての人に辛抱強く対しなさい。15 あなたがたは、注意して、誰も、(他の)誰かに、悪に対して悪をもって報いないように、いやむしろ、いつも、善いことを、互いに[も]、また、すべての人に対しても、(行なうように) 追い求めなさい。

16 いつも、喜びなさい、

17 絶えず、祈りなさい、

18 すべてのことに感謝しなさい、これこそ、あなたがたのための、キリスト・イエスにおける神の意志だからです。

19 霊の火を消してはいけません⁹⁹、

20 預言を軽んじてはいけません、

21 すべてのことを吟味検証し、良いことを堅く守りなさい¹⁰⁰、

22 どんな形の悪事からも遠ざかっていなさい。

23 平和の神ご自身が、あなたがたを隅から隅まで完全に聖めてくださいますように。また、あなたがたの霊と魂と体を、わたしたちの主イエス・キリストの再臨のとき、非難されるところのないものとなるよう、守ってくださいますように。24 あなたがたを召し出している方は、真実な方なので、実際にそうしてもくださるでしょう。

25 兄弟のみなさん、わたしたちのために [も] 祈ってください。

26 すべての兄弟たちに、聖なる口づけによって挨拶してください。27 わたしは主に誓ってあなたがたにお願いします、この手紙がすべての兄弟たちの前で朗読されることを¹⁰¹。

28 わたしたちの主イエス・キリストの恵みがあなたがたとともに (あ

隊伍を外れる」等。

⁹⁸ 「小心な者たちを勇気づけ」は、paramytheisthe tous oligopsychous。は、paramytheisthe (現在、命令法、2人称、複数) <paramytheōmai 「激励する、鼓舞する、勇気づける、励ます、慰める」。

⁹⁹ 「霊の火を消してはいけません」は、to pneuma mē sbennyte。

¹⁰⁰ すべてのことを検証吟味し、良いことを堅く守りなさい」は、panta (de) dokimazete, to kalon katechete。

¹⁰¹ 「わたしは主に誓ってあなたがたにお願いします」は、Enorkizō hymās ton kyrion。「すべての兄弟たちの前で」は、pāsin tois adelphois の意識。「…兄弟たちに」、「…兄弟たちに対して」、「…兄弟たちに向かって」など。

りますように)。